

令和7年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 3 活力と魅力あふれるまちの創造

主要課題	No. 33	文化資源を活用した文化芸術の振興
------	--------	------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の目指す姿	多くの区民が、本区ゆかりの文化人等を通して地域の文化に親しみを持つとともに、歴史や文化の香り高い本区の魅力を認識している。
計画期間の方向性	○誰もが文化芸術に親しむことができる機会の創出 文化芸術施設等との連携等により、誰もが文化芸術を身近に鑑賞し、参加できる機会を充実させるとともに、それらの活動を支える人材育成を積極的に進めることで、区民がより一層文化芸術に親しむことのできる機会の創出に取り組みます。 ○文化資源の魅力の再発見と活用 区ゆかりの文化人や能楽、競技かるた等の文化資源を活用し、文の京ゆかりの文化人顕彰事業等を通じて、その魅力を区内外に発信することで、地域に存在する文化資源の再発見につなげていきます。

事業費（令和6年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)		
123	文化育成事業	アカデミー推進課	区に根付いた文化芸術の継承と更なる振興を図る。							24,357千円 (29,101千円)		
	主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 文化芸術の発表会等参加者数					人	10,504	11,902	10,620			
	② 能楽関係事業参加者数					人	2,752	2,244	2,200			
	③ 競技かるた講師の区立学校派遣校数					校	3	5	5			
	R5(2023)	コロナ禍で休止していた吟剣詩舞道大会、日本舞踊のつどい及び文化祭茶会を再開しました。										
R6(2024)	「文京区×ちはやふるの世界展」を6日間開催し、延べ2,129人が来場しました。 また、かるた講師派遣について、区立学校に加えて児童館・育成室への派遣を行いました。											
124	文京シビックホール（響きの森文京公会堂）における文化芸術活動の推進	アカデミー推進課	多様な文化芸術の発信拠点としての運営を図る。							207,927千円 (214,133千円)		
	主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① アウトリーチ事業実施数					公演	38	37	38			
	② 文化育成事業参加者数					人	1,231	4,614	5,205			
③ 近隣ホールや芸術団体との連携公演数					公演	15	40	59				
125	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	アカデミー推進課	本区の多様な文化的資源を継承・発掘する。							3,229千円 (3,432千円)		
	主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 朗読コンテスト応募者数					人	256	274	274			
	② 歴史講演会参加人数					人	87	107	90			
	③ 史跡めぐり参加人数					人	21	43	17			
	R5(2023)	友好都市提携締結5周年を迎えた盛岡市ゆかりの宮沢賢治作品を課題作とした朗読コンテストを開催しました。また、小石川植物園と共催し牧野富太郎をテーマとした歴史講演会を開催しました。										
R6(2024)	友好交流都市協定締結5周年を迎えた金沢市ゆかりの作家の作品を課題作とした朗読コンテストを開催しました。また、生誕140年を迎えた竹久夢二をテーマとした歴史講演会を開催しました。											

文京ふるさと歴史館の特別展、普及事業			アカデミー推進課		本区の歴史的・文化的資源について、区民の理解を深める。					6,161千円		
										(9,035千円)		
主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
① 特別展入館者数					人	2,344	2,432	3,009				
② 収蔵品展入館者数					人	1,537	2,485	—				
③ 歴史教室参加者数					人	342	184	234				
126	R5(2023)	全国藩校サミット文京大会関連事業として令和4年に国史跡指定100周年を迎えた湯島聖堂の歴史や文化を紹介した特別展や、天気という身近なテーマで収蔵品を紹介した収蔵品展など、多様なテーマで区の魅力を広く紹介しました。										
	R6(2024)	夏休み期間に小・中学生を対象に館内展示についてクイズ形式で行った歴史教室、江戸の水道網の中から文京区とゆかりの深い神田上水や千川上水について、また近代の上下水道の整備について東京都水道歴史館、新宿区立歴史博物館と合同で紹介した特別展などで区の魅力を紹介しました。 夏の高温多湿により展示室の温湿度の調整が困難になったため収蔵品展は休止しました。										
●特記事項（実績の補足）												
行財政運営の視点					取組実績							
行財政運営	文京ふるさと歴史館については、令和5年4月に施行された改正博物館法や、これまでの検討内容を踏まえ、「予防保全型」の考え方を基本として、中長期的な施設のあり方を検討するとともに、歴史資料の保管及び効果的な展示のあり方並びに情報発信の方法、展示機能等について検討していきます。					施設の老朽化や、資料燻蒸薬剤の販売中止などへの対応として、よりよい資料保存の方法を検討しました。 中長期的な方針について、引き続き検討していきます。						

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○誰もが文化芸術に親しむことができる機会の創出		
「文京区×ちはやふるの世界展」では、かるた事業のパネル展示、競技かるた体験やデモンストレーションを実施し、区内外に区の文化資源であるかるたの魅力を発信するとともに身近に感じられるような機会を提供しました。また、シビックホールでは、年間を通して様々なジャンルの公演を行い、全ての年代が文化芸術に親しめる事業を展開しました。ただし、区民参加型の文化祭、各種大会やつどい等においては、若年層の参加率が低いため、周知方法や内容を工夫する必要があります。		
○文化資源の魅力の再発見と活用		
歴史館の特別展では、「水道」という生活に身近なテーマを設定し、東京都の博物館及び他区の博物館と合同でスタンプラリーを行い、3,000人を超える入館者がありました。その一方で、施設の老朽化や近年の急激な気象の変化から、今後は高温多湿の状況の中でも、興味を持っていない人でも立ち寄りやすい出張展示などを活用しながら、展示物に影響を及ぼさずに展示できるよう、関係各所と協議を進めていきます。また、能楽や競技かるたなどをテーマとした事業を行い、幅広い年齢層の区民が文化資源に触れ、知る機会を創出しました。ほかにも、森鷗外記念館では、森鷗外の業績について研究した成果を展覧会開催で発表しました。		

●文化人顕彰事業・文化育成事業参加人数の推移

年度	文京ゆかりの文化人顕彰事業 (人)	文化育成事業 (人)
令和2	370	8,046
3	459	8,092
4	477	13,256
5	550	14,146
6年度	496	12,820

—▲— 文京ゆかりの文化人顕彰事業
—●— 文化育成事業

●芸術鑑賞の観覧者数及び区立施設の来場者数の推移

資料：アカデミー推進課 作成

年度	文京ふるさと歴史館 (人)	森鷗外記念館 (人)	芸術鑑賞事業* (人)
令和2	5,436	8,446	3,411
3	6,973	11,226	2,890
4	10,222	21,613	4,463
5	11,450	22,368	13,373
6年度	11,897	15,992	14,257

—●— 文京ふるさと歴史館
—▲— 森鷗外記念館
—◆— 芸術鑑賞事業*

*芸術鑑賞事業：シビックホールの機能や特性を活かし広範な文化芸術を提供する事業

【SDGsの視点】	
4 質の高い教育を みんなに 	歴史教室において、小・中学生が文京区の歴史をクイズ形式で楽しく学び、文京区に対する興味を深めるきっかけを作りました。
17 パートナーシップで 目標を達成しよう 	特別展では他自治体施設との合同スタンプラリーを行い、来館者数の増につながりました。

4 今後どのように進めていくか（展開）	3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。
能楽や競技かるた及び文の京ミュージアムネットワーク加入施設等の貴重な文化資源を広く周知するため、今後も区内関係団体と連携し、鑑賞や体験を取り入れたプログラムの実施やマップ作成を実施して区民がより一層文化芸術に親しむことのできる機会を創出します。 なお、経年劣化が進む施設の今後のあり方や各種事業や展示について、新たな周知方法を検討し、より魅力的な発信を行っていきます。	